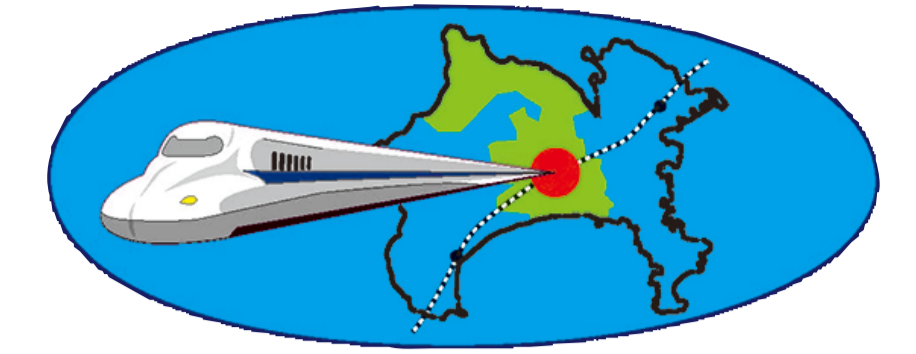


新幹線新駅を寒川町倉見に！



県央・湘南都市圏における「南北ゲート」の形成

県央・湘南都市圏は、面積および人口において本県全体の約3割を占めており、さまざまな産業や研究機関などの集積が進んでいます。

この都市圏では、全国との交流・連携の窓口となる、リニア中央新幹線県内駅を核とする「北のゲート」と、誘致を目指す東海道新幹線新駅を核とする「南のゲート」の形成に取り組んでいます。

また、南北ゲートを繋ぐJR相模線の複線化等の南北交通軸を強化することにより、この都市圏の一体性の向上、新たな活力の向上を目指しています。

リニア中央新幹線県内駅の設置（北のゲート）

「リニア中央新幹線」は、時速500kmで走行する超電導リニアを導入して、品川駅を起点とし、名古屋駅を経て、大阪市を終点とする延長約438kmの新幹線です。神奈川県内の駅は、相模原市緑区の橋本駅南側の地下に設置されます。

平成26年 品川・名古屋間
工事実施計画を認可
平成39年 品川・名古屋間 開業予定

*現在、沿線各地で工事が進められています。



東海道新幹線新駅の誘致（南のゲート）

寒川町倉見地区に誘致している東海道新幹線新駅の実現により、全国との交流・連携の窓口となる「南のゲート」が形成されます。

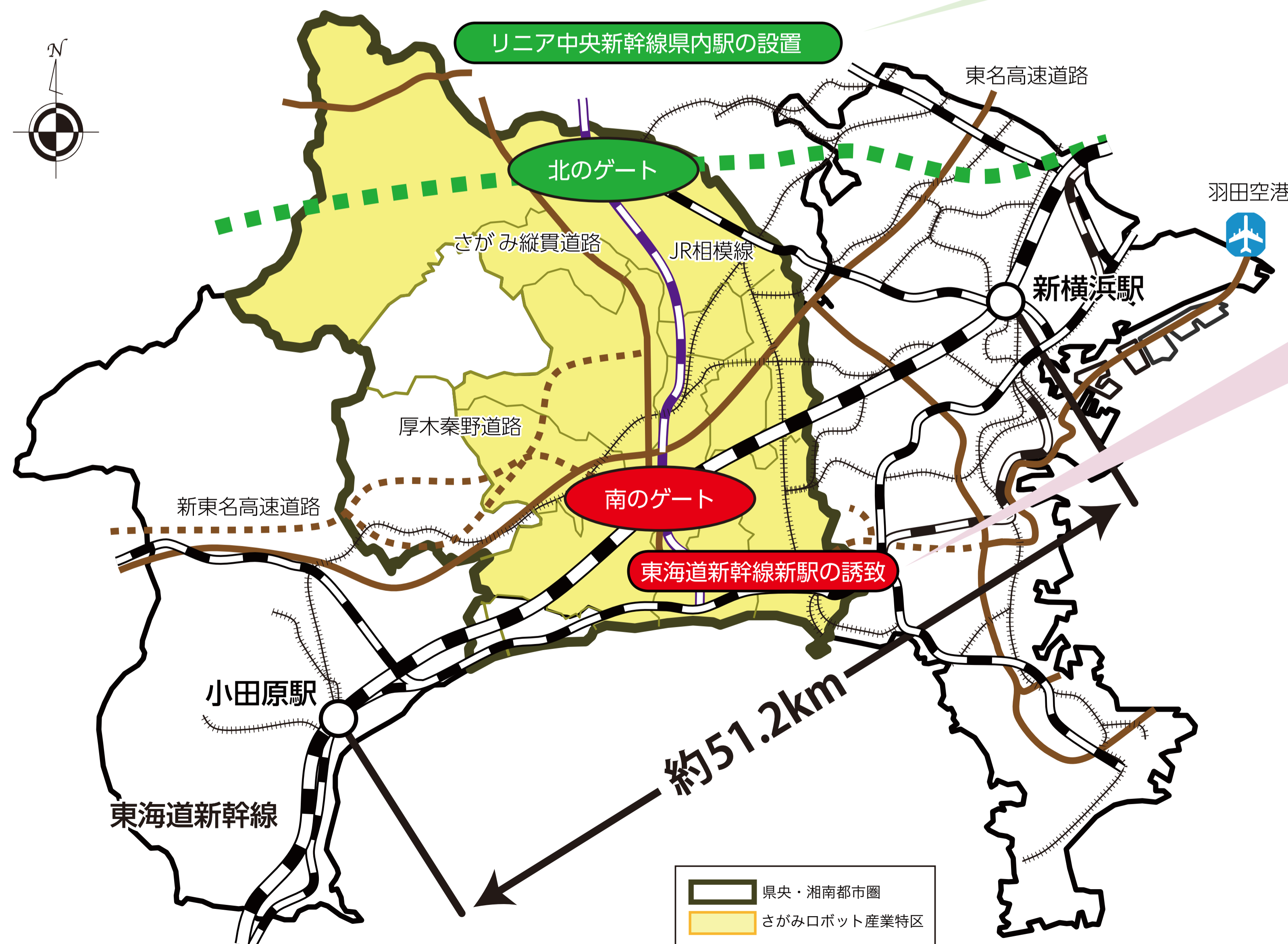
県では、県中央部10市町および経済団体などと「神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会」を設置し、新駅誘致に取り組んでいます。

また、寒川町と相模川を挟んだ対岸の平塚市において、新駅の受け皿となるツインシティのまちづくりが進められています。

なが〜い駅間距離

新横浜駅～小田原駅間の距離は、約51.2km。これは、東海道新幹線の中で、2番目に長い駅間距離です。

その中間に位置する寒川町倉見地区への新駅設置は、人口や産業の集積状況からみても必要だと考えます。



東海道新幹線新駅の可能性を高めるリニア中央新幹線

【新駅設置に向けた最大の課題】

・東海道新幹線の列車ダイヤに余裕がない。

↓ リニア中央新幹線が開業する。

・現在「のぞみ」が担っている役割がリニア中央新幹線に移行することで、東海道新幹線の列車ダイヤの構成に余裕が生じる。

↓ 新駅設置に向けた最大の課題が解決する。

・東海道新幹線新駅設置の可能性が高まる。